



〇〇の秋 P a r t Ⅱ

❖読書の秋

10月に入り、吹く風もだんだんと肌寒くなってきました。いよいよ読書の秋ですね。

新着図書の本棚からひとつご紹介いたします。『十歳までに読んだ本』（ポプラ社、2017）。作家や女優、映画監督など70名が子どもの頃に読んで心を揺さぶられた一冊について綴ったアンソロジーです。

このタイトルを見て、皆さんが思い浮かべるのはどんな一冊でしょうか。

自分が十歳までに読んだ本と言えば…と考えてまっさきに浮かんだのは、松谷みよ子さんの『ちいさいモモちゃん』でした。今もきゅうりの板ずりなどしていると自然と思い出すぐらい、何度も読み返した本です。（水ぼうそうになったモモちゃんがきゅうりのイボを見て「きゅうりも水ぼうそうになってる！」と、薬を塗ったり注射をしたりする場面があるのです。）全6巻のシリーズなのですが、うちにあったのはこの最初の一冊だけだったので、成人してから続きのお話を読んで、その内容が思いがけず重いことに衝撃を受けたのもまた印象深く。同書でも3人の方がこの『モモちゃん』シリーズを挙げていました。

❖そして食欲の秋

また、小川糸さんの紹介文を読んで思わずアッと声が出てしまったのは、安房直子さんの『だんまりうさぎ』。タイトルも忘れていたぐらいなのに、この引用文でたちまち記憶が蘇りました。

「あまくて、しょっぱくて、ふっくりしていて、そのうえ すてきな はざわりで、かめば、くるみが、カリカリと なります。」

だんまりうさぎとおしゃべりうさぎ、異なる価値観を持つ2匹が仲良くなっていくお話なのですが、作中に出てくるこの「くるみのおもち」の描写がとにかく美味しそうで、食い意地の張った私は読むたびにたまらない気持ちにさせられたものでした。

フィクションの世界に出てくる美味しそうな食べ物を実際に食べてみたい！と考える人はやはり少なくないようで、絵本や小説や漫画に出てきたメニューのレシピブックが多種多様に出版されています。大館市立図書館にある中からいくつか並べてみますと、

絵本の世界からは

『絵本からうまれたおいしいレシピ』（ぐりとぐらのカステラやハイジの黒パン・白パンなどを収録）

『絵本『からすのパンやさん』のパンをつくろう！』

『バムとケロのおいしい絵本』

小説の世界からは

『バルサの食卓』（精霊の守り人や獣の奏者など、上橋菜穂子作品のメニューを再現）

『食堂かたつむりの料理』

『みをつくし献立帖』

『ミステリ亭の献立帖』（料理好きの探偵スペンサー、ソフトボイルドエッグに目がないフィリップ・マーロウなど、有名な探偵が登場するミステリー52 作品を取り上げる）

漫画の世界からは

『マンガ食堂』（ドラえもん、深夜食堂、3月のライオンなど古今東西の漫画 49 作品に登場するメニューを収録）

『マンガ・絵本・アニメのあの料理がつかれる！ 夢の名作レシピ（全3巻）』（子ども向けの本なので初心者さんでも手軽に作れそうです）
などなど。

読書の秋、食欲の秋。どちらも図書館でお楽しみくださいね。（栗盛・田）